

(別紙)

【水産業共同利用施設復興促進整備事業計画の実績に関する評価様式】

事業番号 14-2-1

事業名 松川浦漁港旧港地区漂流物流入防止装置設置事業

事業費 31,380千円（国費 21,573千円）

（内訳：工事費 31,380千円）

事業期間 令和6年度

事業目的・事業地区

松川浦漁港松川地区にある船だまり（通称：旧港）には、原釜地区の底曳・小型船約150隻が停泊している。

当該地においては、近年増加している大雨・台風災害の影響で港内に流れ込む稻わらや流木といった漂流物による船舶の故障を避けるため、漂流物の除去が完了するまでの間、操業を見合わせなければならないという課題があった。

本事業により、漂流物流入防止装置を設置することで、船舶の故障を予防するとともに操業の見合わせもなくなる。水揚げ量の確保と水産物の安定供給が可能になることで、流通の面で信頼関係が構築できることから、相乗的な漁業振興が可能になる。

事業地区：松川浦漁港旧港地区

事業結果の概要、目標の達成状況

オイルフェンス巻取機 1基

オイルフェンス 100m

水揚げ数量

令和5年度 5,064t 令和6年度 5,421t

令和6年度は令和5年度比357tの増となっており、震災前（平成22年度）の29.1%まで水揚げ数量が上昇している。

令和7年度においても、当該設備の利用訓練を行うなど災害に備えるとともに、安定的な水揚げの確保のため、積極的な操業を行っている。



オイルフェンス



オイルフェンス巻取機

事業の実績に関する評価

①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

整備した設備は、令和7年3月より、相馬双葉漁業協同組合の管理の下、地元漁業者と協力して運用している。

現時点では設備を使用するような大雨や台風災害は起こっていないが、漁業者、相馬双葉漁業協同組合及び設備の製造業者等による訓練も行われており、今後の被害軽減及び水揚げ増加に寄与するものと考えている。

今後、施設を活用することで本市水産業の発展が見込まれることから、有用であったと考える。

②コストに関する調査・分析・評価

本事業の設備は、漁業者及び利用者への聞き取りや協議を行うと共に、先進事例の研究も行い、必要最低限度の設計とすることで事業費の縮減に努めた。また、整備した施設等は水産業の復興に有効に活用されており、コストは適切なものと考える。

③事業手法に関する調査・分析・評価

	当初想定した事業期間	実際に有した事業期間
工 事	令和6年7月～令和7年1月	令和6年8月～令和7年3月

当初の想定より事務手続き等により着工が遅れたこと及びオイルフェンス巻取機の材料の入荷が遅れたことから当初の想定より事業期間が延長となったが、工事業者等の関係者と調整を綿密に行い、年度内に完成することができたことから、事業の手法として妥当であったと考える。

事業担当部局

相馬市産業部農林水産課 電話番号：0244-37-2152